令和８年度　第１回新発田市総合教育会議（会議録）

１　開催日時　令和８年１０月１９日（月）

開会：午前９時４５分　　閉会：午前１１時２０分

２　開催場所　新発田市教育支援センター車野校

３　協議事項

（１）テーマ１

「学校に通うことのできない、通いづらい子どもたちの『居場所』について」

〇各事業の概要説明

・教育支援センター車野校（学校教育課）

・アートの広場プロジェクト（文化行政課）

・１０代の居場所カフェ（新発田駅前複合施設）

・い～ばしょしばた（社会福祉課）

〇見学

新発田市教育支援センター車野校及びアートの広場プロジェクト

〇質疑及び意見交換

（２）テーマ２

「新発田市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」

４　出席者

市長	二階堂　馨
教育長	工藤　ひとし
教育委員（教育長職務代理者）	石坂　均
教育委員	笠原　恭子
教育委員	村川　孝子
教育委員	山﨑　由紀

５　会議に出席した事務局職員等

〇市長部局

みらい創造課長	高山　広靖
社会福祉課長	榎本　道夫
新発田駅前複合施設長	本田　陽子

みらい創造課課長補佐　　齋藤　直樹
みらい創造課企画政策係長　　溝口　茂伸

〇教育委員会事務局
教育総務課長　　古田　潤子
学校教育課長　　彌源治　仁伺
文化行政課長　　宮﨑　由香
教育総務課課長補佐　　阿部　成美
学校教育課課長補佐　　岡田　崇宏
教育総務課教育総務係長　　小島　貴志
文化行政課文化芸術振興室文化芸術振興係長　　山上　　慎
教育総務課教育総務係主査　　橋本　隆志

６　協議・報告事項の経過
別紙のとおり

（１）開会

〇高山みらい創造課長

ただいまから令和８年度新発田市総合教育会議を開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。開会に先立ちまして本日の流れについて御説明させていただきます。

本日の会議の一つ目の協議テーマは、「学校に通うことのできない、通いづらい子どもたちの『居場所』について」でございます。市では、子どもから大人、ひきこもりや生きづらさを抱える方まで、世代や状況に応じた多様な居場所づくりが行われております。本日は各課の事業概要につきまして順に御説明をさせていただきます。その後、移動いたしまして、ここ教育支援センター車野校の見学及び本校舎で取り組んでおります、アートの広場プロジェクトについて御覧いただきます。見学が終わりましたら、再びこちらの会場にお戻りいただきまして、質疑応答、意見交換を行うこととしてございます。次に、二つ目の協議テーマについてでございます。市教育委員会は、令和７年６月に施行されました「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律」、こちらは改正給特法と呼ばれておりますが、それに基づきまして、令和８年４月１日に「新発田市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定させていただいたところでございます。この計画は、総合教育会議におきまして報告が義務づけられております。そのようなことから、本日は計画の進捗状況につきまして、情報共有を図りまして、教育委員の皆様から御意見等をいただきたいと考えているところでございます。

本日の会議の終了予定時刻は、概ね１１時２０分過ぎぐらいを予定してございます。それでは、令和８年度第１回新発田市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、二階堂市長より御挨拶を申し上げます。

（２）市長挨拶

○二階堂市長

おはようございます。いつものように同じ目線で挨拶をさせていただきたいと思います。新発田の子どもたちに対し、皆様方に大変御協力をいただき、しっかり教育、あるいは育てていただいておりますことに心から感謝を申し上げます。御案内のとおり、新発田は城下町であります。全国に数多くの城下町がありますが、新発田がとりわけ大切に磨いてきたものは「教育」と「農業」であります。そして、全国の城下町に共通しているものが一つあります。それはよくよく考えてみると「懐の深さ」です。やはりこれは城下町特有の歴史、そして伝統が背景にあるのだろうと思います。その一つの例として、私は毎朝、NHK BS の朝ドラを見ながら食事をするのが日課になっているのですが、少し前には「風薫る」という番組がありました。これは「日本のナイチンゲール」と呼ばれる大関和さんや鈴木雅さんの自伝をドラマ化したものですが、実は新発田が少し関わっているのです。新発田藩第１１代藩主の溝口直溥公の養女、栄姫という方がいらっしゃいます。この方は有栖川宮家に嫁ぐのですが、夫である有栖川宮熾仁親王は、戊辰戦争や西南戦争で官軍の大総督を務められた方です。そして、栄姫は戊辰戦争や西南戦争において、敵味方関係なく傷病兵に手を差し伸べられました。その影響もあり、栄姫は東京看護教習所（後の慈恵医大の前身）の設立や、日本赤十字社の前身である博愛社・篤志看護婦人会の設立に関わられました。つまり、ドラマで描かれた一ノ瀬りん、大家直美の生みの親が、実はこの新発田から生まれているということ、これこそがまさに「懐の深さ」でありましょう。

また、NHK の朝ドラで現在放映されているのは「ブラッサム」ですが、宇野千代さんの自伝をドラマ化したものです。その主題歌「咲き誇れ」のフレーズの中に、「その先にどんな明日が待ち受けようとも、あそこにあるんだ。あそこに私の答えがあるんだ。あそこが未来だ。きっとそこに未来があるんだ。」というフレーズがあります。まさに波乱万丈に生き抜いた、宇野千代さんの前傾姿勢の人生観を表していると思います。車野校に通う子どもたちは、きっとほんのちょっとしたつまずきのようなものを背負っているのかもしれません。しかし、その子どもたちにとって、この車野校がまさにあのフレーズで言う「あそこ」であってほしい。「そこに未来があるんだ」「あそこに私たちの答えがあるんだ」と言っていただけるような場所に、この車野校がなれるよう、ぜひ皆様方でしっかりと支えていただきたいと思っております。それでは、これから会議を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

〇高山みらい創造課長

ありがとうございます。これからは着座にて進めさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは会議を始めさせていただきます。進行につきましては、新発田市総合教育会議設置要綱第２条第１項の規定によりまして、会議の議長は市長が務めることとなっておりますので、二階堂市長よりお願いいたします。

（３）各事業の概要説明

〇二階堂市長

それではテーマの１であります。学校に通うことのできない、通いづらい子どもたちの居場所について、事業の概要となります。最初に教育支援センター車野校について岡田学校教育課長補佐から説明をしてください。

〇岡田学校教育課長補佐

私の方から新発田市教育支援センター車野校の今の取組について説明させていただきます。まず、当市の不登校の現状についてです。当市の不登校児童・生徒数は年々増加傾向にありました。特に近年の増加率は高く、この傾向は、新潟県や全国と同じ傾向を示しております。その要因には、新型ウイルス禍における行動様式の変化、学校へ登校するという意識の変化が大きいと言われております。しかしながら、当市では様々な取組もあり、昨年度減少に転じました。当市の不登校児童生徒の要因についてです。複数にまたがっているケースも多く、多様化、複雑化をしております。その中で、学校に行きたくても行けない子どもたちの居場所として、新発田市教育支援センター車野校があります。新発田市教育支援センター車野校、通称車野校は、令和５年６月に旧車野小学校の校舎を利用して開校しました。１日の流れは、概ね御覧のとおりです。カルチャーセンターを発着場にバスが行き３便、帰り２便が出ております。さて、車野校に通っている不登校の子どもはどのような子どもだと思われますか。私は学校現場から現職に着任した時、暗い子どもの姿を想像していました。しかし、ここに通っている子どもたちは本当に不登校なのかと思うほど元気な子どもたちも多くいます。しかし、最初からみんながそうだったわけではありません。この新発田市教育支援センター車野校は、県内で唯一の「〇〇校」という名称です。他市町村は〇〇ルーム、〇〇室という名称をつけています。この車野校という名称にも意味があるのです。車野校の前身はさわやかルームという名称で、カルチャーセンターの一角にありました。ではなぜ、便のいい市街地から今の場所に移転したのでしょうか。さわやかルームが手狭になり、できる活動が限られたことも一因としてありますが、それ以上に他の利用者がいるカルチャーセンターでは人に見られたくないという気持ちから、トイレに行くことができなかったり、アリーナが使えても利用しなかったりする子どもたちが少なからずいたのです。車野校では、体育館も含めて、この校舎を丸ごと使うことが

でき、のびのびと過ごすことができる場所です。車野校という名称をつけたのも、校は学校の校です。ここは学校なのです。出席扱いにもなりますし、自信を持って車野校に通ってもらいたいという思いからこのような名前をつけました。また、今話題になっている多様化学校とは違い、在籍変更の必要もありません。今在籍している学校にいつでも戻ることができますし、併用も可能です。車野校は、子どもたちにとって、①自分らしくいられる場、②自分を受け入れてもらえる場、③自分のペースで学べる場になります。だからこそ、子どもが笑顔で過ごせる場になっているのです。

それでは、車野校の取組についてお話をします。車野校で目指しているところは、学校復帰ではありません。学校復帰後に必要となる自立心と社会性の育成です。不登校の中学３年生のほとんどの子が高校に進学したいと考え、高校になったら頑張るという思いを持ち、頑張って高校に合格します。しかし、進学した少なくない人数の子どもが、ゴールデンウィーク明けぐらいから登校できなくなる現状があります。本来学校で身につけるべき自立心、社会性が不十分なため、再び学校生活に苦しさを感じてしまっているのです。車野校では、この二つの力を、いろいろな方々の支援を受け高めることを大切にしています。その二つの力を育成するための基盤となるのが、居場所、安心安全、そしてその上に、体験活動、協働活動、そして自己肯定感、自信の回復です。

まず、居場所、安心安全についてです。こちらの資料を御覧ください。不登校の状態の子どもたちは心のエネルギーが低くなっている状態です。そのような子どもに必要なのは、安心安全なのです。そのために車野校では、このような体制をとっております。また、１人で過ごしたり休んだりするスペースも確保してあります。別室もあります。ある生徒の例です。ある生徒は、利用してしばらく他の子と触れ合わず、この１人の場所でずっと本を読んでいました。ある時、みんなで地域を散策する活動の際、その子どもは「自分も行く。」と言ってきたのです。もちろん時間のかかる子どもたちもいます。また、安心して子どもたちが交流できるように、学校教育課のスクールソーシャルワーカーが見学や体験に同行したり、保護者や本人と面談し、悩みや困り事を聞いたりなどもしております。

次に、体験活動、協働活動についてです。子どもたちは居場所、安心安全であると感じると、少しずつ何かをやってみようという思いになっていきます。「人は人によってのみ人になる」という言葉のとおり、子どもは人との関わりの中で成長します。車野校では、地域の交流が多くあります。この車野校のある板山地域の方々にとって、地域の大事な車野小学校の跡にできた教育支援センター車野校は、新たな「おらが学校」なのです。一緒にジャガイモ栽培や収穫を行ったり、夏に地域の人が草刈りを行ってくれたりしております。とても車野校を大切にしてくれています。また、企業としても、水倉組様から開校以来様々な支援をいただいております。水倉組様を通して、東区の子ども食堂にジャガイモの寄附もしております。最近では、隣の介護施設、くるまの様からお菓子パーティーやハロウィンパーティーなどのお招きをいただくこともあります。他にも、御覧の様々な体験

活動、協力活動を行っております。学習支援についても、元教員の方から支援をいただいております。地域のイベントにも参加しており、２年前から新発田市文化団体連合会様の御協力のもと、一緒に作品を作り、その作品をねこフェスに展示していただいております。こちらは一昨年の作品になります。こちら全て玄関に大きく提示してありますので後ほど御覧ください。こちらは昨年度の作品になります。こちらは今年度の作品になります。こちらのパネルは、東区の子ども食堂に栽培したジャガイモを寄付した際にいただいたお礼のパネルになります。様々な活動、特に同級生でもない、親でも教師でもない、斜めの関係の方々との交流を通して、褒められ、ありがとうと言われ、できることが増え、少しずつ自信を取り戻していく場所なのです。ここ車野校は、まさしくみんなの学校と言えます。

成果と課題です。成果は御覧のとおりです。今年度は利用者も増えております。また、ある卒業生は進学先の高校で成績が上位であったり、またある子はスポーツで上位の大会に進出したり、利用している生徒の中でも、作文等のコンクールで、県で一番良い賞を受賞したり、ここで過ごした子どもたちが多方面で活躍する姿があります。何より、卒業生の多くが高校進学後も頑張って学校に通っている姿が見られます。子どもたちの可能性は無限大なのです。卒業生がこちらに訪問してくることもよくあります。手紙や年賀状が届くこともあります。ここが子どもたちの大切な場所だという証だと思われます。また、車野校の注目度も高く、様々な視察や実践発表の依頼が来ております。燕市教育委員会は、この１１月に２度目の視察にいらっしゃいます。１１月７日には、新発田社会福祉協議会様主催の若者支援セミナーでも、取組発表と大学の先生とトークセッションをする予定でおります。

今後の目指すところでございます。ここが当校の保護者の交流の場になったりすることも考えておりますし、また、給食の提供も今後視野に入れていきたいと考えております。利用者の拡大に向け、バスの発着場の拡充や活動内容の拡充についても考えていきたいと思っております。この後、取組を紹介するアートの広場もその一つです。また、スムーズな学校復帰へ繋がるよう、学校内の校内支援センターとの連携も積極的に行っていきたいと考えております。最後に、人権作文コンクールで入選した子どもの作文の一部であります。時間の関係上読み上げませんが、御一読願えればと思います。後ほど素敵な子どもたちの姿も御覧いただければと思います。以上で発表を終わります。

〇二階堂市長

続きまして、アートの広場プロジェクトについて、宮﨑文化行政課長から説明をしてください。

〇宮﨑文化行政課長

今ほど岡田課長補佐の方からも説明がありましたが、アート体験を通じた子どもたちの

自己肯定感、自尊心の育成と社会的自立、学校復帰、進学に向けたアプローチということでアートの広場プロジェクト事業を始めさせていただきました。先ほどお話もございましたが、不登校の現状は全国では過去最多の３５万人です。特に低年齢化が顕著ということで全国的な傾向になっております。小学校においては約５．５倍、中学校においては２．２倍、この傾向については、全国、新潟県、また新発田市においても同様の傾向が出ております。新発田市においては、過去１０年間で、小学校については全国値より低いですけれども４．６倍、中学校においては２．４倍ということで、不登校は全国的な課題であり、新発田市においても同じような状況となっております。そんな中、新発田市教育支援センター車野校での支援ということで、新発田市においては、特別な支援を行っております。その中でなぜ今、不登校支援にアート体験が必要なのかということで書かせていただきました。車野校においては、地域の方のふれあいも含めて多様な活動をされています。その中で今回は機能の拡充ということで、アートを使ったアート体験を組み入れてみました。

一つ目に背景ですが、学校という枠組みの中で、自信や自己肯定感を喪失してしまった不登校児童・生徒が増加しております。そのような中で、安心できる場が求められていることから、アート体験を通じて自己表現の楽しさ、「これでいいんだ」という自己肯定感や自己自尊心を育みたいと考えております。単なる作品制作に留まらず作品を制作した後には、地域イベントへの出品や運営参加を通じて、社会と繋がる実感と達成感を獲得するということが最終目標になっています。このアートの体験につきましては、文化団体連合会の御協力により、これまでも３年間継続して行っておりました。それを今年度は拡充をいたしまして、地域おこし協力隊員１名を活用しております。彼女はアーティストの地域おこし協力隊員でありまして、業務内容の一つ目は教育支援センター車野校でアート体験を通じた支援、もう一つは全市的な文化芸術振興となっております。彼女はアートの広場に「そらのはこ」という名前をつけました。「そらのはこ」は、教育支援センターの中にある創作体験スペースです。１０畳ほどの小さな部屋で好きな画材や工作道具を自由に選びながら自分のペースで安心して創作に取り組むことができます。１人または少人数での利用も可能となっていますので、静かな場所で過ごしたいという子たちにもおすすめです。

彼女が着任しまして、これまでの主な活動になります。まず一つ目は「作る」です。普段の活動としまして、安心安全な居場所での創作。イラストや絵画、クラフトなど、自由な体験を行っています。また、ねこフェスへ出品する作品のアイディアを出し、創作をいたしました。右側の写真がそのときの写真です。合同作品を制作いたしました。同作品を制作する中で、自分はこうしたい、でも一緒にいる友達はこうしたいなど、みんなで協議をしながら作品の制作を進めたと聞いています。次は「出す」、イベントへの出品です。自分が制作した作品が地域のイベント、ねこフェスへ出品・参加できる、自分の創作物が他者に評価される体験を行ったのが、ねこフェスです。こちらの車野校においては、もう既に３年継続して行っている事業になっています。その後、ステップ３としては「関わる」。イベントへの参

加、社会参画、他者との協働ということで、ここがポイントとなっております。当日ブースには、児童生徒およそ１０名程度の方にお越しいただくことができました。学校にはなかなか行きづらいということでしたけれども、大勢のお子さんに当日のイベントにお越しいただいて、またその保護者の方も大勢来場いただきました。他の来場者やスタッフとコミュニケーションをとりながら、創作したパネルの前で親子で写真を撮っている、フォトスポットで大勢の方が映え写真を撮影している現場を、子どもたち自身が見ることができました。来場者から「すごく良かったよ」「とってもいいね」「楽しいです」と子どもたちにも声をかけてもらって、そこが子どもたちの自己有用感の芽生えだったのではないかと思っております。

今後の活動展開になります。まずは、教育支援センター内で公的施設での常設展示、また教育支援センターの２階を使った企画展示などを考えたいと思っております。また二つ目としては外部講師、アーティストとの連携です。文化団体連合会の方たちにも様々な技術を持った方がいらっしゃいますので、イラストに限らず、多様なアート体験などを提案してみたいと思っています。例えばお茶会や陶芸、洋画など、やってみたいことは何でもチャレンジしていただきたいと思います。また、既存の登録者の方は、「そらのはこ」にお越しいただいてるのですけれども、ご自宅にいらっしゃるとか、車野校に来てみたいけれども来れない方たちに対しては、本日の資料にチラシをつけさせていただきましたが、新たに公式ホームページを制作いたしました。もし時間がありましたら後ほどスマホでそのＱＲコードを読み取って御覧になってください。資料の画面がホームページとして出来上がっておりまして、非常に温かい雰囲気を提案できているのではないかと思いまして、広くそういった部分を周知し、ハードルを低くして、こちらに通いやすくしたいと考えております。

最後に、新たな提案になります。オリジナルグッズの製作・販売により社会参画を目指したいというものです。彼女は様々なオリジナルグッズを作ったことがありまして、マグカップやバッグ、缶バッチを製作した技術を生かしまして、子どもたちにも、缶バッジやトートバッグ、マグカップなどの製作を企画から考えていただきたいと考えております。また、現在市民文化会館の中にある「喜十郎」のカフェに車野校の作品の展示スペースを用意してもらっています。かつ、その販路につきましても、喜十郎の方で確保しておりますので、お店で展示、販売までできると考えております。資料の一番下に書きましたけれども、もし可能であれば彼女たちがキャリア教育、インターンシップのような形で自分が作ったマグカップでコーヒーやお茶を提供して、お客様に出すような体験もしてみてはどうかというふうに考えております。ここが今回のアートの広場で目指す最終的な行き先です。この社会参画の部分で子どもたちに自信を持ってもらい、また、他の人たちに「美味しかったね」とか「この作品すごいね」などと言っていただくことにより、自己有用感を高めていってもらって、高校進学や社会参画に繋げてもらいたいと考えております。

最後にこの事業が目指す姿です。まずはアートの広場に行きたいという声が増加して、車

野校に出席するきっかけとして機能するのがまず第一歩です。その先にもっといろいろな挑戦をしてみたいとか学校の美術部に行ってみたいというような前向きな意思表示が出てくるのが狙いと考えています。最終的には自分で出来た体験を自信にして、自己有用感を育て、社会や学校への再接続をサポートできると思っております。子どもたちにとって安心安全な居場所ということで提案しておりますが、単なる居場所にとどまらず、社会参画、また学校復帰、進学を支える持続可能なモデルへ繋げていきたいと考えております。

○二階堂市長

それでは続きまして、１０代の居場所カフェについて、本田駅前複合施設長から説明をしてください。

○本田駅前複合施設長

それではイクネスしばたに開設しております１０代の居場所カフェ事業につきまして説明をさせていただきます。当事業の目的は、子どもたちが気軽に立ち寄り、ほっとできる居場所を提供することと、指導員が話し相手となることで、悩みや不安を抱える子どもたちを支援することの二つです。近年の新聞報道や意識調査によると１０代にとって最大の悩みの６割は人間関係です。その他進路や将来への不安、学校生活など多岐に及んでおります。また、先ほどの説明にもありましたように、令和６年度の小・中学校における不登校児童生徒数は過去最多となり、高校生を含めるとその数はさらに膨らむものと推測されます。こうした中、子どもたちが気軽に立ち寄り、悩みや愚痴を話せる学校の保健室的な存在となる第三の居場所として機能することを目指し、平成３０年７月に１０代の居場所カフェを開設いたしました。

それでは、１０代の居場所カフェの概要と運営状況について御説明いたします。１０代の居場所カフェの対象は、小・中・高生を中心とした１０歳から１９歳までの子どもたちです。開設場所は、新発田駅から徒歩数分というアクセスの良い立地であり、図書館という学校帰りに子どもたちが気軽に立ち寄れる施設ということで、イクネスしばたの２階、児童書コーナーに隣接している多目的室に開設をしております。毎週月曜日と水曜日、時間は１４時から１９時までの週２回、１日５時間開設しております。なお、月曜日と水曜日は統計上、校内でトラブルが多い傾向にあると言われている曜日ということで、この曜日としております。室内には６人掛けのテーブルが６卓あり、グループ単位での利用も可能となっております。指導員は、元教員の女性職員２名です。

次に、カフェでの子どもたちの過ごし方についてです。子どもたちはセルフサービスで提供しているジュースなどを飲みながら、リラックスした様子で思い思いに過ごしています。カフェは、子どもたちが学校や家庭のプレッシャーから解放され、心からほっとできる場所となることを目指しており、自由に過ごすことを推奨しています。例えば、リラックスした

雰囲気の中で集中して宿題や学習を行う子が多く、家庭での学習環境が十分に整っていない子どもたちには貴重な場となっています。また、カフェで用意したボードゲームで仲間と楽しく過ごす姿も見られます。ボードゲームは、コミュニケーション能力や思考力を養うことができ、時には交流のきっかけにもなっています。おしゃべりを楽しむ子、ただ静かに過ごす子など、子どもたちのニーズは様々ですが、こうでなければならないという制約なく、自由に過ごせる空間を提供することで、心の安定と成長をサポートしています。１０代の居場所カフェが、学校の保健室的な機能を果たす上で最も重要なのが、指導員による手厚いサポートです。カフェには、子どもたちの発達段階や心理、教育現場の状況を深く理解している元教員である指導員が常駐しています。指導員は、子どもたちが気軽に何でも話せる存在であり、子どもたちの話し相手となり、どんな内容でも真摯に耳を傾け、共感と受容の姿勢で寄り添っています。個別相談にもじっくりと向き合い、必要に応じて学校や専門機関等へ情報提供を行っています。また、学校の宿題や学習に取り組む児童・生徒に対しては、個々の進路や理解度に応じた的確なアドバイスを提供しています。これは、学習面でのつまずきを解消するだけでなく、子どもたちが自信を持って学びを進めるための重要な支えとなっています。豊富な経験を持つ元教員だからこそ、子どもたちの心の成長や将来を見据えたサポートができており、これが利用者ニーズに繋がっているものと認識しています。

資料の２ページ目をお願いいたします。１０代の居場所カフェは、幅広い子どもたちに開かれた場所であり、様々な利用の状況が見られます。基本的には小・中・高生を中心とした１０代の子どもたちが学校帰りに利用することが多く、１４時から１６時頃は小学生、１６時以降は中学生が訪れますが、部活動がない日は利用者も多くなっています。１７時以降は高校生が中心となり、夕方の時間を有効活用しながら、落ち着いた雰囲気の中で過ごしています。１人での利用から、同じクラスのグループでの利用もありますが、年代や居住地が異なる子どもたちがおしゃべりやゲームなどを通じて交流する姿も見られます。指導員には、学校、家庭、心など多岐にわたる相談がありますが、保健室的な機能であることから、深刻な悩みは多くありません。なお、車野校の生徒たちが月１回グループで訪れる他、「い～ばしょしばた」の利用者が訪れることもあります。不登校児童と保護者が利用者の少ない時間帯に訪れることもあり、カフェの雰囲気や指導員の対応が不登校児童生徒の居場所の一つとして、保護者の皆様からも評価をいただいているものと考えております。

１０代の居場所カフェは、開設から８年３か月、延べ１万１８７８人の子どもたちに利用されてきました。直近３年間の利用実績は記載のとおりですが、１日の平均利用者数は年々増加傾向にあり、令和８年度は９月末時点で１日平均２６．５人となっております。また、相談件数は概ね年間２０件台後半で推移しており、令和７年度の相談内容は、学校や家庭に関するものが多く、相談内容によっては、必要に応じて、学校や専門機関等に繋げています。利用者数が増加傾向にあること、また、かつて利用していた中学生が大学生と成長した今でも指導員に会いに来てくれたり、下の子たちの世話をしてくれたりすることもあります。指

導員と子どもたちが強い信頼関係を育み、子どもたちの第三の居場所として定着しているものと考えております。また、異なる背景を持つ子どもたちが交流によって相互理解を深めるとともに、学校に足が向かない児童・生徒にとっても、社会との接点を維持する重要な役割を果たしております。なお、この１０代の居場所カフェのような、保健室的機能の事業は、県内には実施例がなく、先進的な取組として県内他市から視察や見学にも来られています。

最後に、１０代の居場所カフェは、開設以来、子どもたちの居場所としての役割を果たしてきましたが、これから１０代を迎える子どもたちへの周知を続け、引き続き子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えております。

〇二階堂市長

ありがとうございました。それでは続いて、「い～ばしょしばた」について、榎本社会福祉課長から説明をしてください。

〇榎本社会福祉課長

ひきこもり支援事業につきまして御説明を申し上げます。新発田市では令和４年度にひきこもりの方々がどのくらいいるのか、実態調査を実施いたしました。実態調査のやり方といたしましては、民生委員や障がい福祉サービスの事業所、それから行政の方で、どのような方を把握しているのか調査の結果、２５５名のひきこもりの方を確認をしたところであります。国の統計などを見ていますと、実際はもう少したくさんの方がいらっしゃるとは思うのですけれども、私どもが今把握できている数としては２５５名であります。そういった方々の居場所を作ってまいりたいということで、令和６年から「い～ばしょしばた」という名称で、現在はボランティアセンターの中で事業を実施し、相談支援員が１名常駐しております。利用人数につきましては記載のとおりであります。来訪者数につきましては、１日に３人から４人、利用時間は約２時間ですが、長い方だと半日以上いらっしゃる方もいます。そのほか、他の方との交流を目的としたお楽しみ会なども実施をいたしております。利用者の一例といたしましては、ひきこもりの状態から何とか抜け出してほしいと親御さんから言われ、来られている方もいらっしゃいますし、病気や他者との交流、人との距離感など、何かしらの生きづらさを抱えて悩んでいる方が多く利用されています。または、福祉の事業所の合間に利用されている方もいらっしゃいます。

成果といたしましては、現在「い～ばしょしばた」に来られている方は、完全に引きこもっているという状態ではなく外に出られる方ですので、就職や就労継続支援Ｂ型の利用に繋がった方、あるいは昼夜逆転生活だったものが、生活のリズムが整ってきたという方もいらっしゃいます。ただし課題もありまして、事業を３年間実施してみて、それぞれ一人一人がかなり異なりますので、関わりの難しさを感じておりますし、また、男性の利用者が圧倒的に多く、２対８くらいの割合で男性の方が多いことも課題の一つです。支援員

が男性ということも原因の一つとしてあるのではないかと思っております。
　その中で、新たな取組として始めたものがサテライトでありまして、本日の会場となっておりますこの部屋でサテライトの実施をいたしております。火曜日と木曜日に実施を始めたところであります。令和８年９月２４日からですので、実施から数回程度でありますけれども、新たな利用者の方はまだいらっしゃいませんが、既に利用している方がサテライトの様子を見に来られ、広々として景色も良い、静かで良い環境なので、サテライトの利用も考えていきたいと話している方もいらっしゃいます。今後そのような方がもう少し増えてほしいと思っております。私どもとしては、その方に応じた対応を検討し、試行錯誤しながら何とか前に進んでいきたいと思っております。

〇二階堂市長
　それでは、概要説明が終わりましたので、この後、施設及びアートの広場プロジェクトの見学となります。事務局案内をしてください。

〇高山みらい創造課長
　それではこれから担当課長が施設内を御案内いたしますので、御移動をお願いしたいと思います。

（４）新発田市教育支援センター車野校及びアートの広場プロジェクト見学

（５）質疑及び意見交換

〇二階堂市長
　それでは会議を再開いたします。学校に通うことのできない、通いづらい子どもたちの居場所について、先ほど説明がありました。各事業の概要、または車野校の取組等を踏まえ、質疑や意見交換を行いたいと思います。教育委員の皆様から忌憚のない御質問や御意見をお聞かせいただければ大変嬉しく思います。何かございますでしょうか。

〇村川委員
　各課の発表をお聞きして、多様な場面で様々な方々に手を差し伸べているということがよくわかりました。私自身、かつて学校現場にいた際、「さわやかルーム」を訪れたことがあります。市の中心部にあり立地は大変良かったものの、少々手狭であると感じておりました。その後、車野校の開校に伴い、広々とした素晴らしい環境の中で活動できるとお聞きし、大変嬉しく思った覚えがあります。本日お話をお聞きし、また、地域おこし協力隊員の方にお会いして思ったのですが、やはり人材を生かしながら、子どもたちに色々な活動を支援し

ていることは大変素晴らしい取組であると思います。子どもたちの中には、自ら外出することが難しい子や他者との接触を避けたがる子がいる一方で、一歩踏み出して活動に参加してみたいと考えている子もおります。そうした一人一人のニーズに応じ、各課が連携して適切な人材を配置されていることは、子どもたちにとって幸せなことだと思いました。地域おこし協力隊員、そして「１０代の居場所カフェ」の指導員の皆様は８年間にわたり開設当初から頑張っておられる。現場を訪れる度に、子どもたちに寄り添い、親身になって相談を受けている様子を見ると大変微笑ましく、私が前回訪問した際には、かつてここを卒業した大学生が子どもたちと一緒に参加しておりました。こうした繋がりもまた一つの人材であって大変価値があることだと思います。これからもこのような連携による取組の効果を考慮しながら進めていただきたいなと思います。

その上で今後の課題は、人材をどのように確保するかということと、もう一つは情報を求めてる方たちにどう届けるかということだと思います。学校を訪問した際に、学校現場は子どもの状況や家庭の状況を把握しており、校長先生が、それぞれの子どもや親御さんの困り感に応じて様々な施設を紹介してるとの話がありました。それも一つ大きなことですし、併せてＳＮＳなどの電波で広く周知することは、子どもたちに直に働きかけるには良い方法であると思いました。人材確保と情報を求める人にどのように周知するかという二点です。この素晴らしい取組をぜひ多くの方々に周知し、さらに広げていただきたいと思います。以上、意見とさせていただきます。ありがとうございました。

○二階堂市長

ただいまの御意見に対して何か事務局の方ではコメントありますか。

○彌源治学校教育課長

情報が欲しい方にどう伝えるのかということはやはり課題だと思っております。当然不登校のお子さんもそうですし、学校に行きづらいというお子さんや保護者にどうやって伝えるのか、どういった情報を伝えるのかというのは学校も悩んでいるところであります。今色々な情報が揃っておりますし、校長会等で学校にも指導して、必要な方に情報を伝え、様々な選択肢があるということをしっかり伝えていきたいと思っております。

○二階堂市長

ありがとうございます。他にはございませんか。

○笠原委員

今日はありがとうございました。先ほど見学した時に、にこにこした笑顔の今どきの女の子たちがいて、ここが安心安全な場だということが子どもたちはわかっているからあの

笑顔なのかなと思いました。アートの広場プロジェクト事業の説明を受けまして、子どもたちの社会参画というお話をされていましたが、実は私も料理店を経営していますので、今年の秋に各中学校から職業体験の受入れもしました。もし、少し背中を押してあげれば社会に出られるような子どもたちがいるのならば、私の店で引き受けられると思いますので、そういった御相談を受けることができるとお話を聞きながら思っておりました。というのもコロナ前に、不登校になった高校生のお子さんの保護者の方から、子どもをバイト感覚で預かってもらえないかとのお話があり、しばらくバイトという形で料理店で働いてもらいました。その子が料理が好きだったのがきっかけなのかわからないのですが、その後、大阪の調理師学校に行きまして、現在は有名なリゾートホテルの料理人になっています。本当に子どもたちの背中を押す場所がどこに、どのようにあるのかわからないと思っています。ですので、もし協力できるところがあれば、お声がけいただきたいと思いますし、私は１０代の居場所カフェへ行ったことがないのですけれども、行ってみたいと思いました。ありがとうございました。

○二階堂市長
　ありがとうございました。今の御意見について何かありますか。

○宮﨑文化行政課長
　大変ありがとうございます。これからグッズの製作をして、それを製品にしまして、販売するにあたって、インターンシップやキャリア教育というところで御協力いただけると非常にありがたいです。インターンシップやキャリア教育などの社会参画を通じて、いわゆる「生きる力」を、ぜひ子どもたちに体験してもらって、社会に出るための自信にしていただけたらと思いますので、ぜひまたお声掛けさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○二階堂市長
　他にございますか。

○石坂教育長職務代理者
　今日はありがとうございました。今日のテーマにもありますけども、学校に通いづらい子どもたちの居場所を物理的に提供することはどこの市町村でも学校でもありますけれども、その環境という点になると、車野校は本当に素晴らしい場所だと思います。市街地から遠いですが、市からバスを出していただいているので、ここに来れば本当に景色も良いし、カルチャーセンターにあった時のように、トイレに行くにも施設の利用者がいるのを気にする心配もないです。本当に安心して通える、そのような環境の場所が提供されてい

る。それから、アートの広場は本当に入っただけでゆったりできるような環境の場所が用意されている。１０代の居場所カフェもやはり高校生が行けるのは大きいと思います。小・中学校の時に学校に行きにくくなった子が高校に行って学校に行きにくくなった時に、少し息抜きができる。ですから、小・中・高校生が行けるのが大変素晴らしいと思います。それから、１０代の居場所カフェが図書館にありますので、小さい子から大人まで大勢の方が出入りしていますから、ここへ行くというハードルはすごく低いと思います。何か特定の建物で、そのためだけの玄関を入っていくのと違って、行くハードルが低い。そして中でゆったりできる。そういう場所が提供されている。また、「い～ばしょしばた」は、もっと大人の方も行ける。比較的行きやすいけれどもそんなに人が通る場所ではないため、やはり行くハードルが非常に低い。そのような環境の場所に全部準備されていると思います。ですから、物理的な場所ということではなく、非常に良い環境にある場所が提供されていることは、非常に素晴らしいことだと思います。勉強は家で１人でもできるのですが、やはり大勢でなければできないことがあるということ、今日の事業説明でもその部分を大事にしているとの話がありましたが、子ども達のこれから先の人生を見た時に、知識も大切ですが、やはり人と交わることで得るもの、色々な人と交流できるということは、とても大事なことではないかと思います。車野校の活動は、それを大切にしている。そして、協力してくださる地域の方もいらっしゃって、様々な機会を提供している。これからも色々な機会を提供する計画がある。ぜひともまた、色々な機会を提供していただければと思います。先ほど村川委員の方からもお話がありましたが、実際に苦しんでいる子どもたち、動き出している人には色々な手が差し伸べられる時代だと思いますが、そこまで踏み出せない人たちへの情報提供や働きかけを今後どうしていくか、その辺が課題ではないかと思いながら見学させていただきました。

○二階堂市長

ありがとうございました。高い評価をいただいたようであります。他にございますか。

○山﨑委員

本日は本当にありがとうございました。私からも所感になりますけれども、実はこの車野校ができた令和５年に私は大学で４年生の卒論指導をしておりました。その中で、ある学生がリサーチをしていたのが、アメリカのチャータースクールというオルタナティブ教育の一つでした。学校に行けない子どもたちにはフリースクールやフリーダムスクールやホームスクールなどの色々な機会が提供されていますが、チャータースクールについては認可されている学校であり、ちょうど車野校ができたところだったので、新発田にチャータースクールがあるんだねと大学で話をしていたことを非常に懐かしく思い出しておりました。その学生が調べていたリサーチの中に、アメリカは州ごとに教育行政が違いますが、福祉行

政と文化行政が非常に進んでいる地域でチャータースクールの法律ができたことは非常に先進的であり、まさに新発田市は先進的な地域なのだと今日お話を聞いていて、非常に深く感じました。今日、学校教育、文化行政、駅前複合施設、社会福祉の全部が連携する形の一部としての車野校を見せていただきましたが、この連携する事業の一つだというところが非常に大きいのではないかと思いました。児童・生徒の年頃の人たちが居場所として非常に必要とされる、そして、非常に多様な考え方の中で目的が学校復帰というよりも、むしろ社会と結びつく自立であるとのことですけれども、社会に出た人たちがまたどこかで一旦立ち止まる時に、また結びついていくというような連携に繋がっていくのではないかと感じました。本当に感銘を受けました。ありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございました。

○工藤教育長

車野校に御理解をいただいたのは二階堂市長なのです。車野校の開校は本当に私の夢でした。この地に開校するにあたり課題になったのは交通手段でした。市街地からここまで３０分かかります。当初、保護者の方からは、「なぜ遠い所にわざわざうちの子を通わせなければならないんだ。」「他の場所があるのではないか。」と反対の声があったことから、交通手段を確保するために、私は路線バスをお願いしていました。その時に市長から、「それならば、運転手を雇ってバスを運行させたらいいのではないか。」とおっしゃっていただき、車野校の子どもたちはバスで自由に登下校ができるようになりました。これで保護者も子どもたちも納得してくださいました。車野校へ来たみたら、豊かな自然がある素晴らしい所だと皆さんから本当に喜ばれたのを今でも忘れられません。市長がよく言われる「１５の春を泣かすな」という言葉があります。子どもたちを義務教育でしっかり育て、そして次にステップとして高校や大学、専門学校などがありますが、その力を作るのはやっぱり義務教育の９年間です。ここをオール新発田で各課が協力することによって、一人一人が素晴らしい人生を歩み、自分の力で働いて生活を成し遂げていけたら、とても幸せだと思うのです。その意味で、住みよいまちの原点は、やはり一人一人が大事にされるまちだろうと思いますし、そのようなまちだったら、人々が住んでよかった、生まれてよかったと思ってもらえるのではないかと思っています。先ほど岡田課長補佐からも話がありましたが、車野校の子どもたちは各分野で活躍をしています。それは、相談員の方々が子どもたちの話をよく聞き、話を聞いて終わりではなく、その次の基盤を作るところまで取り組んでくださったおかげだと思います。これからもこの形で子どもたちが成長してくれたら本当に嬉しく思います。これからも御支援をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございました。皆さん方から御意見をいただいたようでありますので、その御意見についてはしっかりと頭に留めて参考にしてください。私の方から一つあります。学校へ通う子どもは同じ行政サービスを受ける権利がある。今後の課題の中に学校給食がありましたが、子どもたちは学校給食を受ける権利を持っているため、対応をするようにしてください。それでは皆さんの御意見をいただいたようでありますので本日皆さんお諮りいただきました御意見を参考にさせていただき、家庭をはじめ、教育支援センターや学校、地域、関係機関など様々な場所や人と繋がりながら、引き続き子どもたちを見守り支えていけるよう、教育活動を支援していこうではありませんか。

（６）新発田市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

○二階堂市長

それでは次に、「新発田市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、彌源治学校教育課長から進捗状況等について説明をしてください。

○彌源治学校教育課長

私の方からは「新発田市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について説明をさせていただきます。今年度から、総合教育会議で業務量管理の実施計画について共有をしていくことになります。計画の主な説明ということになりますが、若干現在の状況についても触れさせていただきたいと思います。資料の１ページ目に、計画の趣旨、現状が記載してあります。令和７年６月に給特法等の改正がありまして、業務量管理・健康確保措置実施計画については各自治体等で定めることとなっております。新発田市においても同様に計画を策定させていただきました。本計画に基づいて教育職員１人ひとりが児童・生徒とじっくりと向き合い、心を通わせた教育活動を推進するために、また教育職員の負担を軽減し健康な心身でやりがいを持てるような職場環境を実現するという方向で進めてまいりたいと思います。また、本計画の実施状況については、公表するとともに総合教育会議においても報告し、地方公共団体との連携を図りつつ、取組の更なる改善に繋げてまいりたいと考えております。

本市の現状につきましては、１ページ目の一番下に記載があります。令和６年度の状況ではございますが、時間外在校等の時間の状況についてです。小学校、中学校ともに月４５時間を上回る勤務をしている職員が、小学校では２７％、中学校では４７．４％の割合でおります。めくっていただきまして２ページ目になります。これを受けまして本市としましての目標ということで数値を記載させていただいております。（１）時間外在校等時間に関する目標については、令和６年度の現状値等がありますが、令和１１年度には全て

の教職員が４５時間以上ではない勤務になるように努めてまいりたいという目標を立てております。特にまた１年間における時間外在校等時間の平均でありますが、この平均というのが、当然ある教職員にとっては４０時間を超える職員もおりますでしょうし、例えば１０時間で終わる職員もいるかもしれませんが、その平均として令和１１年度には３０時間に留めてまいりたいと思っております。そして二つ目としまして、ワークライフバランスや働きがい等に関する目標ということで、年次有給休暇等の平均取得日数を少しでも増やしていけるようにするということ。そして、健康等にも関わりますので、ストレスを大きく抱えた職員がいないように、ストレスチェックを実施する割合を令和１１年度には１００％にしてまいりたいと思っております。３ページ目を御覧ください。計画の期間としましては令和８年度から令和１１年度の期間と定めております。また、この期間が終わりましたら、新たな計画を策定してまいりたいと思っております。４番の実施する業務量管理・健康確保措置の内容でございますが、（1）、「業務の３分類」として、イ　学校以外が担うべき業務、また、ロ　教師以外が積極的に参画すべき業務、ハ　教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務ということで、３ページから７ページに記載させていただいております。主だったものを御紹介します。３ページ目、イ　学校以外が担うべき業務については記載のとおりでありますが、一番下に地域学校協働活動の関係者間の連絡調整等で地域コーディネーターを配置し、段階的なコミュニティスクールの導入を合わせて行いながら働き方改革等を進めてまいりたいと思っております。４ページ目を御覧ください。ロ教師以外が積極的に参画すべき業務でありますが、最初に調査統計等への回答として具体例を申しますと、学校へ行う調査等があります。これは新発田市や県、国からもございますが、調査の必要性、内容等についてしっかりと精査をして、調査の方法等を検討してまいります。③にも記載しておりますが、学校のアンケート等については、学校でタブレット端末も使っておりますし、保護者にもメール配信等ができる環境が整っておりますので、ＩＣＴ化できるところについては進めていくなど、様々なことを計画として盛り込んでおります。５ページ目を御覧ください。部活動につきましては、令和８年度より休日部活動の地域展開を何とか成し遂げたところでございますが、着実に実行されるように検討を進めてまいりたいと考えております。ハ　教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務としましては、校務支援システムの導入、または学校行事の準備等、スクールサポートスタッフ等の連携ということで、多くの学校を支援する体制を構築してまいりたいと考えております。６ページ目一番下の（２）学校における措置の推進におきましては、７ページ目にかけて、①から⑤まで記載しております学校行事等の見直し、教育課程等の見直し、実はここは例年多くの学校で標準時間以上に、多くの授業を行う中で長時間学校に子どもたちがいるという状況があり、全国的に授業時間数を適正にしていくよう指導が入っておりますので、そこに見合うように見直していきます。デジタル技術の活用、④地域学校協働活動への積極的な参画とこのようなことを新発田市教育委員会としましてもしっかりと

進めてまいりたいと思っております。（３）健康及び福祉の確保に関する取組につきましても、①から８ページ⑥まで記載しております。この在校時間①番に記載しておりますが、１か月の在校時間が８０時間を超える教職員から申し立てがあったときには、医師による面談指導を行うということで、これも体制を整えております。教職員が安心して働けるように、このような環境を整えてまいりたいと思っております。めくっていきまして８ページ目、一番最後になりますが、５、関連する取組、今後のフォローアップについても①から⑤まで記載しております。①には毎年度、取組状況について新発田市のホームページで公表するとともに、定例教育委員会及び総合教育会議において報告することになっております。

現状としましては、特に中学校での時間外勤務が大きく削減されている状況でございます。特に中学校は土日の部活動の地域展開が進んだことにより、これまでは大体５２％程度の中学校職員が４５時間以上勤務しておりましたが、現在では３８％となり、２０ポイント近く下がっておりますので、一つ一つの取組の成果として表れてきていると思っておりますが、まだまだ十分ではございませんので、引き続きこの計画にのっとって進めてまいりたいと思っております。説明は以上になります。

○二階堂市長

説明が終わりましたので、それでは発言をお願いいたします。

特段ないようであります。それでは以上で本日の協議事項は全て終了いたしましたので、進行は事務局の方にお返しします。

（７）閉会

○高山みらい創造課長

ありがとうございました。貴重な御意見、御発言、誠にありがとうございます。それでは以上をもちまして、令和８年度新発田市総合教育会議を閉会させていただきます。皆様どうもありがとうございました。